

またしても1ドル150円突破、円安が進むワケ

月 初1ドル146円台でスタートしたドル円は円安が進み、足元では150円台前半に達している。150円突破は、32年ぶりであった2022年秋、2023年秋に続いて3度目ということになる。

150円突破の原動力としては、①堅調な経済指標や多くのFRB要人発言を受けた米国の3月利下げ観測の後退、②内田日銀副総裁による「マイナス金利解除後の緩和的な金融環境維持」方針示唆を受けた円高圧力の後退、③大幅な株高に伴うリスク選好的な円売り、④新NISA開始に伴う持続的な対外証券投資フローが挙げられる。

米利下げ観測の後退は進んだものの、依然5月までの利下げ観測も残っており、その修正が入ることではばらくはドルが堅調に推移し、さらなるドル高進行も想定される。4月と目される日銀のマイナス金利解除・YCC撤廃も既に大方織り込み済みであり、その後も緩和的な金融環境が維持されるとみられることから、円高圧力は限定的に留まる。ただし、150円超では円買い介入への警戒感が円の下値を支える。さらに153~154円台に到達すれば、実弾介入が行われる可能性が高いとみられることから、急速な円安進行は考えにくい。

5月に入ると、FRBの利下げ開始(弊社予想は6月)が視野に入ることドル安圧力が高まると見ている。3カ月後の水準は146円前後と見込んでいる。

月初1ユーロ158円台でスタートしたユーロ円も、ドル円同様上昇し、足元では161円台後半にある。日銀副総裁発言に伴う円高圧力の後退や、株高に伴うリスク選好的な円売りユーロ買いなどが作用した。当面は円高材料が見当たらず、ユーロの高止まりが想定されるものの、ドル円同様、5月入り後はECBの利下げ観測が次第に強まることがユーロ安に働くだらう。3カ月後の水準は160円弱と見込んでいる。

月初0.6%台後半でスタートした長期金利は、利下げ観測後退に伴う米金利上昇を受けてやや上昇し、足元では0.7%台前半にある。4月には日銀によるマイナス金利解除・YCC撤廃が金利上昇要因となるが、日銀は緩和的な金融環境を続ける方針を示唆していることから、上昇余地は限定的だろう。3カ月後の水準は0.8%台と予想している。

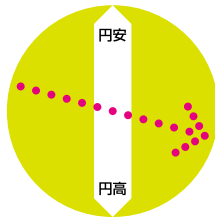


上席エコノミスト **上野 剛志**
 うえの つよし | tueno@nli-research.co.jp
 1998年日本生命保険相互会社入社、
 2001年同財務審査部配属、
 2007年日本経済研究センターへ派遣、
 2008年米シンクタンク The Conference Boardへ派遣、
 2009年ニッセイ基礎研究所。

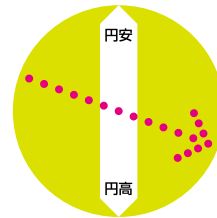


Market Karte

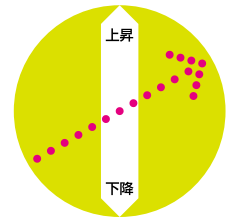
March 2024



ドル円・3カ月後の見通し

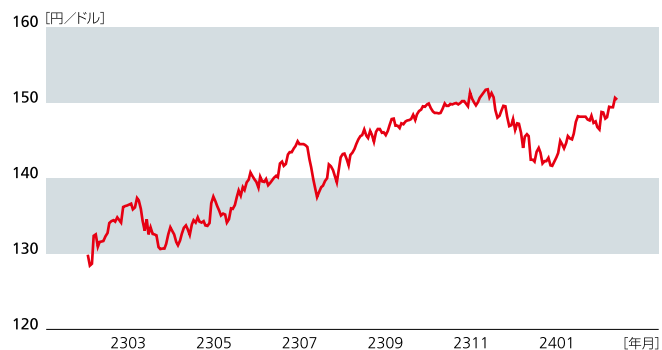


ユーロ円・3カ月後の見通し

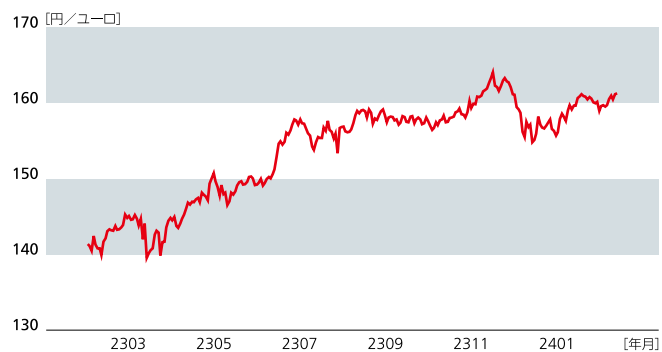


長期金利・3カ月後の見通し

ドル円為替レートの推移 [直近1年] 資料:日本銀行



ユーロ円為替レートの推移 [直近1年] 資料:ECB



長期金利(10年国債利回り)の推移 [直近1年] 資料:日本証券業協会

